



育て 理科好き ～国分小学校出前授業～



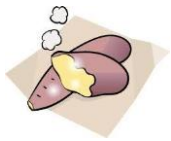
10月12日(土)、国分高校理数科生が、本校と同じく舞鶴城跡の敷地内にある国分小学校で出前授業を行いました。①小学生に理科に興味を持ってもらうこと、②小学生と高校生の交流を通して両校が連携を深めること、を目的に昨年度から始まり、今年で2回目です。先生役の本校2年生20人が物理、化学、生物、地学の4つのブースに分かれて待機し、同じく4つのグループに分かれた小学6年生140人がローテーションで各ブースを回って、授業を受けました。

- ①物理分野 重心を学んでコマを作ろう
- ②化学分野 液体窒素で見る超低温の世界
- ③生物分野 昆虫の体を知ろう
- ④地学分野 炭酸飲料で見る火山噴火のメカニズム



地学の実験を楽しむ
小学生と先生役の高校生

高校生が手作りで準備した実験に、小学生は興味津々の表情で参加し、ときには大きな歓声が上がり、大変楽しい授業となったようでした。また、高校生にとっても、小学生のストレートな反応や、予想もしない純粋な質問に戸惑いながらも、伝えることの楽しさや難しさを学び、大変有意義な体験となりました。この出前授業は、**地元の地方紙で「育て 理科好き」という見出しで大きく報道され、注目されました。**



プレゼンテーション講習会 I



10月16日(水)、一般社団法人 Global Academy 代表理事である岡本尚也氏を講師として招き、課題研究の意義や進め方について、講演していただきました。内容を要約すると

- ① 15歳、18歳時点での学力に大きな意味はない。**目的を持って学び続ける人間が伸びていく。**高校時代は、「自分が何をしたいか」を学ぶとともに、失敗することも許される貴重な時期である。
- ② 文系の課題研究にとっては、**データを集めて現状を徹底的に分析し、「何をもって課題とするか」を適切に判断すること**が大切である。また、自分が面白いと思うことを、自分事として研究できるテーマを設定することが研究を深めていく上での鍵となる。
- ③ 探究は、**イメージとしての抽象的なマジックワードから始まって、より具体的に言語化していく過程**で深まっていく。そのプロセスにおいては、先人たちの英知を活用し、知識を持つことが必要である。生徒たちは、最後まで真剣な眼差しで話を聴き、講演終了後には数十名にも及ぶ生徒が岡本先生を質問攻めにする姿がみられ、講演内容への関心の高さが窺われました。岡本先生、ありがとうございました。

